観光は平和へのパスポート
国連世界観光年宣言

JHSたより

平成30年3月15日（15,000部）発行
2018.3 Vol.62

学校法人日本ホテル学院
発行所／専門学校日本ホテルスクール
一般財団法人 日本ホテル教育センター
〒164-0003東京都中野区東中野3丁目15番14号 TEL.03-3360-8231(代)
https://www.jhs.ac.jp http://www.jec-jp.org/ FAX.03-3360-8584

フィリピンの政府、大学、企業から表彰の楯

～フィリピン観光振興局、UPH大学、ベルビューホテル～
海外研修旅行で2,150名の学生がフィリピンを訪問したことが評価されて

左から：観光振興局Mr. Arnold Gonzales、UPH大学顧問Mr. Moran Richard、経営者Dr. Daisy Tamayo、本校石塚校長、学長Dr. Alfonso Loreto、学部長Ms. Everlyn Antiporda

本校の海外研修旅行でフィリピンを訪問してから6年が経過しました。UPH大学との連携で、2012年度10名の学生を送り、学生間の交流が双方の学生から大きな評価を得たことで、2013年度から本格的に1年生404～450名をフィリピンに送り、両国学生の異文化交流を基本にした海外研修旅行を継続してきました。

開始から6年目で、累計2150名を超えたことから、フィリピンの観光振興の観点からも大きな評価を受けることになり、フィリピン観光振興局からは観光業界へ貢献度の高いモデルケースであること、UPH大学からは学生間の異文化交流において、新たな取り組みとして、教育的に顕著な効果が双方に見られることの理由により、表彰を受けることになったものです。また、マニラ滞在中お世話になっている滞在ホテル「ベルビューホテル」からは、2015年度から開始した卒業生の研修生の受入先としても、研修生と従業員やお客様との関係も良好に機能していることで、表彰を受けたものです。

これまで関係した政府、大学、企業の皆さんのご協力ご支援には大変感謝しているところです。

一般的な日本人には、フィリピンに対するイメージが余り高くありませんが、発展する東南アジア諸国も、実際に行ってみなければ分からないもの。英語が公用語になっているので、国際的な発展の潜在力を秘めています。フィリピンは親日国でもあり、想像を超える大きな変貌を遂げつつあるのが現実です。

両校の学生の満足度も90点以上の高い評価を得ており、これからも、現実を実際に見る、現実を理解する、そして双方の文化的な違いを尊重しあうことを基本に、若い世代の青少年交流の場として、関係者のご協力ご支援を得ながら、アジアの異文化を理解する糸口として、フィリピンとの関係を継続していく予定です。

今回、三者からの表彰は、本校の大きな名誉となりました。

左：ベルビューホテル
ジョニ・ーチャン会長

写真左：フィリピン観光振興局
アーノルド・ゴンザレス氏
写真右：表彰の楯を授与される石塚勉校長

第7回学生観光論文コンテスト 懸賞金100万円

校長　石塚　勉

2011年このコンテストを開始して以来、7年間で、大学・専門学校94校から374編の論文が寄せられ、論文作成者数が約1200名となりました。

これは、観光日本の基幹産業にすべく、観光立国を目指す政府の政策を支援して、全国の学生への啓蒙運動として、（一財）日本ホテル教育センターが開始したもので、観光長官賞50万円、協賛の（一社）全日本シティホテル連盟会長賞25万円、共催の（公財）日本ナショナルトラスト会長賞25万円の三賞が授与されます。

2017年度は、38大学76編という過去最多の論文提出がありましたが、残念ながら、観光長官賞の該当論文はなく、駒澤大学チームと横浜国立大学チームに優秀賞、同志社大学チームに審査員特別賞が授与されました。

この数年間、訪日外国人が急増しています。2003年小泉総理大臣が国会で初の観光立国宣言をして以来、2013年悲願の目標1000万人をようやく達成しましたが、2017年2,869万人と急激に増加、2020年目標も4000万人に修正されました。この動きは、観光産業の成長、拡大の一面を物語っています。

観光業界でも人材育成が大きな課題となっており、観光を深く考察する過程で、観光産業の奥行や幅の広さを理解し、多くの若人が参画し、将来のリーダー格が出てくることも期待したいものです。

詳細は、http://jec-jp.org/research/contest.phpを参照ください。

第7回学生論文コンテスト表彰式
受賞者と審査員の皆様

2017年度　第26回弁論大会を開催

～ホテル総支配人、企業トップの方を迎え～

－最優秀賞　日本語部門　田川沙樹さん、英語部門　林子淳さん－

第26回弁論大会を11月16日、なかのZEROホールで開催しました。

全校在校生約900名、ホテル総支配人の方々などのゲスト審査員20名、内部審査員1名、教職員29名、計約950名の聴衆を前に、総勢38名の予選を通過した日本語部門5名、英語部門5名、計10名の弁士が熱弁を振るいました。

本大会は「表現力、語学力の向上」「同世代間の考え方・価値観の共有」などを目的として開始され、今回で26回目を迎えました。

学内レベルの大会としては類を見ない規模で、毎年、外資系ホテル総支配人や業界企業トップの方などゲスト審査員を迎えて実施しています。

左から：石塚校長、田川沙樹さん、ヒルトン東京ベイ 副総支配人 太田 博章氏

左から：石塚校長、林子淳さん、マージョリー L デューイ氏、トーマス ザレスキ氏

審査員の皆様と弁士

弁士紹介（発表順・敬称略）

■日本語部門

2年	石川　知恵	LGBTの正しい理解
2年	三田　　葵	手で、綴る
2年	我妻　京香	ホテリエが使う敬語
1年	中村　友海	五つの輪を繋ぐホテリエの心
2年	田川　沙樹	言葉の持つ力

■英語部門

2年	三谷　航希	How Important English Is
2年	栗原　汐音	Effects of Growing Technology
2年	林　　子淳	Don't Put All Your Eggs in the Chinese Basket
2年	雨宮　　舞	Appreciating Differences
1年	岡村明日香	In Dedication to My Mother

ゲスト審査員の皆様【順不同】

八木　朋子　様	アマン東京	総支配人
ロス クーパー　様	アンダーズ東京	総支配人
江口　英一　様	株式会社観光経済新聞社	企画推進部長
トーマス ザレスキ　様	グランド ハイアット 東京	料飲部長
田中　勝　様	グローバル・ホスピタリティ研究所	代表
マージョリー L デューイ　様	Connectworldwide Japan	President
小林　信次　様	株式会社 埼玉西武ライオンズ	前代表取締役社長
リチャード ソレンセン　様	ザ・ペニンシュラ東京	ホテルマネージャー
小南　正仁　様	ザ・リッツ・カールトン東京	ホテルマネージャー
阿部　貞三　様	株式会社柴田書店	編集企画部 取締役部長
野田　兼義　様	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	専務理事
松尾　茂　様	Hyatt Hotels Corporation	シニア グローバル セールス ディレクター
中島　理悦子　様	Hyatt Hotels Corporation	統括人事部長 日本・ミクロネシア地区
エルヴェ マゼラ　様	パーク ハイアット 東京	総支配人
マイケル ウィリアムソン　様	ヒルトン東京	総支配人
太田　博章　様	ヒルトン東京ベイ	副総支配人
岸　琢也　様	フォーシーズンズホテル丸の内 東京	ホテルマネージャー
中山　美香　様	マンダリンオリエンタル東京	人事部長
シェン ミン フォン　様	LEGOLAND Japan株式会社	ホテルディレクター
安部　トシ子　様	一般社団法人ワールドワイドパーティプランナー協会	代表理事

第35回全国専門学校英語スピーチコンテスト

～ブライダル科2年 雨宮舞さんが出場～

応援に駆け付けた先生方と
左から：下田先生、武内先生、雨宮さん、江口先生

12月11日に中央区立日本橋公会堂にて開催されました第35回 全国専門学校英語スピーチコンテストに本校からブライダル科2年 雨宮舞さんが出場しました。雨宮舞さんは、『Appreciating Differences：異文化に感謝』をテーマとし、自身の留学経験から感じた視点をもとに、国によって異なる文化・言語の必要性を力強く聴衆に訴えました。

雨宮さんは11月16日に実施された本校主催の「第26回弁論大会」にも出場し、優秀賞に選ばれています。その功績から今回の全国専門学校英語スピーチコンテストにも合わせての出場となりました。

2018年度海外ホテル研修生制度認定式を実施

～海外のホテルでの活躍をめざす7名～

研修生代表挨拶
腰塚さん

2018年度海外ホテル研修生制度認定式を12月16日に開催、派遣予定の7名へ武内副校長より認定書が手渡されました。

2018年度の研修は、スイスホテル研修生1名、シャングリ・ラ ホテル研修生3名、フィリピンホテル研修生2名、モーベンピックホテル スクンビット1名の計7名が渡航を予定しています。

認定式後は、海外ホテル研修生制度の概要や派遣先ホテルの環境など、保護者への説明会を行いました。

海外ホテル研修生制度認定者と保護者の皆さん

武内副校長より認定書を授与

フィリピン観光開発局、UPH大学から表彰の楯
～パーペチュアル・ヘルプ大学との提携から6年、両国の交流・観光発展に寄与してきた功績に対して～

フィリピンの首都マニラにあるUniversity of Perpetual Help（UPH）は本校と卒業後の海外大学編入制度の編入先大学として提携しているとともに、学校行事の一つ、海外研修旅行でも関わりが深い大学です。

2012年度からの提携が始まり、6年が経過し、UPHとの交流を契機に2012年度から昼間部、夜間部1年生の海外研修旅行をフィリピンで実施し継続しています。

これまでの6年間で2,150名という多くの学生が同国を訪問し両国の交流、観光発展に寄与してきました。この功績に対して、日本ホテルスクールを代表して石塚校長がフィリピン観光振興局から「表彰の楯」が贈られました。

そして、これまでに、昼間部、夜間部1年生の海外研修旅行における両校の学生交流、また交換留学制度の開始など、UPHと長い年月をかけて絆を深めてきました。

フィリピン観光局担当官、UPH幹部および関係者、UPHアテンド学生と本校学生との記念写真

今回、2017年度の海外研修旅行で本校の学生の渡航が2,000名を超えたことから、大学から「感謝の楯」が贈られました。

また、本校の石塚校長、川上副校長のUPH訪問に対して、オーナー、大学総長をはじめ幹部の方々から歓迎を受け、両校の深い交流が今後も末永く続くようにオーナー邸で夕食を共にしながら意見交換も行いました。

フィリピン観光振興局の担当者から記念の楯を贈られる石塚校長

左から：石塚校長、UPHオーナー経営者デイジー・タマヨ 博士、UPHアンソニー・タマヨ総長

UPHへ交換留学中の川田海生さんによる司会

フィリピン観光振興局から贈られた「表彰の楯」

フィリピン・ベルビューホテルと強固な協力関係を継続
～海外のホテルで経験を積む～

昼間部・夜間部1年生の海外研修旅行をフィリピンで実施、ホテルは、ザ ベルビューホテル マニラを宿泊先として利用しています。

2012年度以降、海外研修旅行で毎年400名以上の学生が同ホテルを利用しているとともに、2015年度より海外ホテル研修生制度として卒業生が首都マニラにあるザ ベルビューホテル マニラ、ボホール島のザ ベルビューリゾート ボホールで研修を行っています。

これまでの長年に渡るホテルと学校との交流、実績に感謝の意を込めて、ベルビューホテルより「感謝の楯」が贈られました。

中央左：ベルビューホテル　ジョニ・ーチャン会長
中央右：石塚勉校長

ザ ベルビューリゾート ボホールにて
後列左：岸井梨沙子さん（研修生）
後列中央：安澤和哉さん
（2014年卒ザ・ベルビューホテル日本人セールス担当）

ザ ベルビューホテル マニラで活躍する卒業生漆間みな美さん（2016年卒業）

また、石塚校長と川上副校長が、ザ ベルビューホテル マニラ、ザ ベルビューリゾート ボホールの施設見学を行うとともに、ホテルオーナー経営者との意見交換、そして今後の本校との展開について話し合いを行いました。

ベルビューホテルグループでは今後もホテル建設を予定しており、シティとリゾートにそれぞれに魅力的なホテルを所有しています。

イタリア・ローマ、フィリピン・マニラで国際交流
～ヤング・スコール・クラブ～

海外研修旅行でのイタリア・ローマ、及びフィリピン・マニラ訪問に併せて、Young Skal Club の国際交流会を実施しました。

Young Skal Clubは観光業界の世界的な交流組織であるSkal Club（スコールクラブ）の青年組織です。2015年に英語専攻科の学生を中心として活動を開始し、海外の会員と積極的な交流を図っています。

国際的な場への参加は学生たちにとっても大変貴重な経験となりました。

マニラのスコールメンバーとの交流会の様子（フィリピン・マニラ）

Skal Club Romeの皆さんと記念撮影（ローマ）

交流会の様子（ローマ）

交流会の様子（ローマ）

マニラのスコールメンバーを囲んで

ホテル科・英語専攻科２年生　卒業ゼミ実施
～ホテル経営シミュレーション～

ホテル科は卒業を控え、2年間の集大成となるホテル経営シミュレーションゼミに参加します。昼間部は、HMS（ホテルマネジメントシミュレーション）、夜間部は、HOP（ホテルオペレーションプログラム）、いずれも本学が独自に開発した特別プログラムです。

過去の仮想経営状態データから、ホテルの経営方針を定め、各部署の企画・立案し、予算配分を行う意思決定までの工程をシュミレーション形式で行います。

企業のコンサルタントとしても活躍する先生方に直接指導を受けます

話合いながら方針を定めます

このゼミに参加することで、ホテルで経営に携わるために知っていなければならない事が体系的に理解できます。

特別授業を実施
～ザ・リッツ・カールトン東京 ホテルマネージャー来校～

ザ・リッツ・カールトン東京ホテルマネージャー小南正仁氏が来校、昼間部1年ABCクラスの学生対象に特別授業を行いました。

講話の中でザ・リッツ・カールトンのService Valuesを説明していただき、講義後半では「1つの目標を達成したらその次の目標はどう考えるのか」や「海外と日本のリーダーとしての違いはなんであるか」など様々な質問を小南講師にしていました。

この講義を通して、就職活動前の学生たちは多くの刺激を受けたようでした。

“レストラン事業計画”を発表
～レストランマネジメントの授業にて～

決勝に出場した学生たちと審査員の先生方
審査員は、レストラン経営のエキスパート

「レストランマネジメント」の授業では、実際のデータを元にして、”レストランマネジメント”を学びます。

レストランの開業は、時代の変化によって求められるものが変わっていきまので、実際の経営で起こりうる問題や課題を含めたレストラン事業の基本を理解していく必要があります。その授業の総括として、各クラスで2～3チームを作り（計5クラス14チーム）、レストラン事業計画をプレゼンテーション形式で発表します。

チーム内で、社長、料理長、サービス担当、セッティング担当、経理などそれぞれの学生が役割を担いプレゼンテーションに向けて準備をしていき、全14チームから6チームが決勝へ進み、そのアイディアを競いました。

真剣に聴講する学生

ザ・リッツ・カールトン東京
ホテルマネージャー　小南 正仁氏

クラブ活動紹介（1）

本校では現在５つのクラブ・同好会が活動しております。今回は野球部とフットサル同好会を紹介します。

野 球 部

ＪＨＳ野球部は、東京都専門学校野球連盟に加盟し、春季大会（5月）、夏季選手権大会（8月）、秋季大会に出場しています。

試合は、軟式野球で春季と夏季大会はトーナメント戦、秋季大会のみリーグ戦と決勝トーナメント戦で行います。

春季大会後の集合写真

専門学校の野球大会には、女子も選手として登録でき、JHSでは3名の女子選手がいます。女子マネージャーも5名登録しています。

夏季多摩合宿のグランドにて

合宿の食事の準備は全員で

フットサル同好会

フットサル同好会は、主に学生主体で活動しています。活動内容は練習や試合、時には大会などへの参加です。月に1回程の頻度で開催、女性もプレイヤーとして和気あいあいと楽しみながら汗を流しています。

初心者はもちろん女性の方も安心して参加できるクラブ活動です。

大会に出場し優勝

7人制「ソサイチ」の試合に出場

また、フットサル同好会では、卒業生も参加し、BBQや合宿なども行っていて、先輩に学校生活の不安なことや就職活動についてもアドバイスを受けています。

～ＪＨＳ同窓会便り～

技能五輪全国大会・卒業生が銀賞受賞
～磯部千尋さん、鈴木千佳さん～

2017年11月24～27日に実施された技能五輪全国大会（中央職業能力開発協会主催）レストランサービス部門で、磯部千尋さん（2016年卒業　沖縄ザ・ブセナテラス 琉華菜苑勤務）と鈴木千佳さん（2016年卒　ホテルオークラ東京勤務）が見事銀賞を受賞しました。

左から川上先生、鈴木千佳さん、島田先生

＜レストランサービスの競技課題＞
- 課題１　課題のメニューに沿って２名のディナーセッティング
- 課題２　食前酒の作成／バーサービス
- 課題３　オードブルのサービス
- 課題４　ワインのデカンタージュ
- 課題５　プーレのデクパージュ
- 課題６　チェリー・ジュビレのフランバージ

磯部千尋さん

報告のために来校した鈴木さん

那覇で活躍する卒業生
～ハイアット リージェンシー 那覇 沖縄～

沖縄県那覇市最大の繁華街でもある国際通りに程近いエリアに位置する、2015年7月に開業した沖縄初のハイアットブランドホテル「ハイアット リージェンシー 那覇 沖縄」（プレミアホテルグループ）で白井美里さん（2011年卒業）、姜美玲さん（2013年卒業）、藤岡聖也さん（2014年卒業）の3人の卒業生が活躍しています。

ハイアット リージェンシー 那覇 沖縄エントランスにて
左から、藤岡さん、姜さん、白井さん

本校の卒業生3名は、海外ホテル研修生制度を利用して1年間海外のホテルでの研修を経験しています。これまでの海外での経験を活かして、外国人観光客数が4年連続過去最高記録する沖縄の地で活躍されています。ともに2015年7月のホテル開業から携わっています。

「JHSゴルフクラブ」ゴルフコンペを開催
～卒業生、教職員15名が参加～

左：乙部会長
右：優勝した平井忠晴さん

参加者の皆様

今回で4回目を迎えるコンペは、12月8日、千葉県市原市の市原ゴルフクラブで開催されました。優勝は初参加の平井忠晴さん（1988年卒）でした。

「JHSゴルフクラブ」は幅広い年代の卒業生と教職員の交流及び卒業生相互の交流を深め、情報交換、親睦、ネットワーキングを図ることを目的に、2016年4月1日に発足しました。会長は乙部 彩佳さん（2010年卒）、副会長は林 哲平さん（2009年卒）と、本クラブの発案者でもある若い二人が務めています。2017年11月30日現在、卒業生の会員は21名、そのうち女性は5名です。主な活動は、年2回、春と秋にゴルフコンペを開催、年1回の懇親会を行います。

会員の年会費は不要、都合がつく時に参加できますので、少しでも興味のある方は、お気軽に学校までご連絡ください。

■「JHSゴルフクラブ」に関するお問い合わせ
担当：石塚崇　TEL：03-3360-4631　E-mail：t.ishizuka@jhs.ac.jp

◆◆◆　各クラスより「同窓会理事」が任命されました　◆◆◆

2017年度同窓会理事任命式を挙行、各クラス1名が同窓会理事に任命されました。卒業後は同窓会と卒業クラスの仲間を繋ぐ大切な役割を担っていきます。2017年度は12名の理事が任命され、石塚勉校長より委嘱状が授与されました。

授与後、石塚校長より同窓会の活動内容（全体同窓会・JHS同窓大学・JHSソムリエクラブ・JHSゴルフクラブ）についての説明があり、「若くして理事に任命されることは大変名誉なことであり、社会的には信用の証である」と激励の言葉をいただきました。

昼間部同窓会理事と先生方

夜間部同窓会理事と先生方

財団ニュース

第７回　学生観光論文コンテスト　表彰式を開催
～優秀賞２編・審査員特別賞１編が選出される～

一般財団法人日本ホテル教育センターは、一般社団法人全日本シティホテル連盟の協賛を受けて、公益財団法人日本ナショナルトラストと共催で昨年末、全国の大学・短期大学・専門学校の学生を対象とした「第７回　学生観光論文コンテスト」を実施、今回は、傑出した論文が見出せず、残念ながらコンテストの最高の賞である最優秀賞（観光庁長官賞）は該当なしという結果になりました。優秀賞２編は、横浜国立大学経営学部３年（代表　丹野百絵）、駒澤大学経済学部 番場ゼミナール３年（代表　田中由香）に決定、また、審査委員特別賞に同志社大学商学部 西村幸子ゼミ３年が選出され、2月20日、東京ビッグサイトにて表彰式を開催しました。

優秀賞【公益財団法人日本ナショナルトラスト会長賞】
横浜国立大学経営学部３年 丹野百絵（代表）・甲斐安浩・鴨志田直紀・山本章郎
テーマB：『古民家を活用した観光まちづくりのあり方』

優秀賞【一般社団法人全日本シティホテル連盟会長賞】
駒澤大学経済学部 番場ゼミナール３年 田中由香（代表）・及川侑香・倉品果歩
テーマC：『複数都市協力型 MICE 開催による日本の MICE 競 争力の向上 ～主要都市 MICE に対抗するための地方都市

審査委員特別賞
同志社大学商学部 西村幸子ゼミ３年（代表　高木颯希）・西本匠・杉原朝香・仲島礼哉
テーマA：『アニメ聖地巡礼を活性化させるためのモデルプランの提案 ～世界が訪れたくなる観光立国、日本を目指して～』

第７回学生観光論文コンテスト表彰式
受賞者と審査委員の皆様

【過去の応募論文数と学校数】

第1回	2011年度	論文数～33編	学校数～ 9大学・3専門学校
第2回	2012年度	論文数～61編	学校数～28大学・2専門学校
第3回	2013年度	論文数～62編	学校数～27大学・1専門学校
第4回	2014年度	論文数～49編	学校数～27大学
第5回	2015年度	論文数～45編	学校数～25大学・1専門学校
第6回	2016年度	論文数～51編	学校数～25大学・1専門学校
第7回	2017年度	論文数～76編	学校数～33大学・1専門学校

優秀賞
横浜国立大学経営学部３年

優秀賞
駒澤大学経済学部　番場ゼミ３年

【お知らせ】
今回の優秀論文については、3月上旬に、Web サイトにて公開予定。
また、2018 年度第 8 回学生観光論文コンテストの応募要領は 5 月中旬にリリース予定です。
http://www.jec-jp.org/

審査員特別賞
同志社大学商学部　西村幸子ゼミ３年

観光庁観光人材政策室長
川村康二様のご挨拶

高崎経済大学准教授　井門隆夫氏の講演

伊藤氏は「『代わりの従業員などいくらでもいる』という時代は去り、『あなたが辞めたら絶対に補充できない』という時代になったという現実を直視、認識する必要がある」と指摘。従業員は減る一方という前提で考え、現従業員には少しでも長く残ってもらわなければならないと述べました。「宿泊業、飲食サービス業の離職率は28%と全業種中で首位であり、これは働きやすい職場、働きやすい環境ではないことを示している」と強調。解決策として（1）給与水準と勤務体系の向上（2）自動化、ＡＩ化、ロボット化―を挙げた。「解決できなければ、人手不足倒産もあり得る」として、（3）については、さまざまな実例を紹介し、導入に向けての検討を促しました。

日本旅館国際女将会　12月定例会を開催
～人手不足対策を議論～

12月14日、12月定例会を東京大学駒場地区キャンパス内のフレンチレストラン「ルヴェソンベール駒場」で開催。34名が出席しました。

勉強会のテーマは「旅館の人手不足対策」。井門観光研究所社長で高崎経済大学准教授の井門隆夫氏が「旅館の人手不足問題の傾向と対策」を、宿泊施設活性化機構事務局長の伊藤泰斗氏が「労働人口推移と人口減少の影響、機械化・自動化・ＡＩ化」をそれぞれ講演。観光経済新聞社編集部次長の長木利通氏は「観光経済新聞社の人材紹介事業と外国人労働者の雇用手法」として、新事業の内容などを紹介。

宿泊施設活性化機構事務局長
伊藤泰斗氏

料理勉強会
オーナーシェフによる講演

編集責任者：石塚　勉
編 集 担 当：黒沢由美子
連　絡　先：03－3360－8231　kurosawa@jhs.ac.jp